

社会科学学習指導案

I 単元 わたしたちの生活と情報 —情報産業とわたしたちのくらし—

II 単元の考察

1 児童の実態

子どもたちは、前小単元「工業生産と工業地域」において、次のような学習に取り組んできている。

我が国の各種の工業生産や工業地域の分布、工業生産を支える貿易や運輸などの働きについて調べ、我が国の工業生産の現状や特色について捉え、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考える学習。

この学習を通して、以下のような実態が明らかとなった。

社会的事象への 関心・意欲・態度	工業の種類別や規模別の生産額、工場数、工業地帯や主な工業地域の分布、貿易や運輸の働きについて調べ、我が国の工業生産の現状や特色について考えることに意欲的に取り組んできた。
社会的な 思考・判断・表現	我が国の工業生産の概要と貿易の様子、工業の盛んな地域の分布と交通網の発達について関連させて考えたり、工業生産と自分たちの生活との関わりについて表現できたりした子どもが多い。
観察・資料活用の 能力	教科書や資料集などで課題の解決に必要な資料を収集し、調べることができた。また、地図やグラフから我が国の工業生産や貿易の様子を読み取り、表や文章で整理することができた。
社会的事象への 知識・理解	工業の盛んな地域は、外国から原材料を輸入するため海沿いに多く分布していたり、原材料を製品に加工して輸出していたり、多くの中小工場が日本の工業生産を支えたりしているという、我が国の工業の現状や特色を理解することができた。

2 単元の価値と構想

(1) 単元の価値について

本小単元では、わたしたちの生活に影響を与える情報産業である放送局について取り上げ、情報産業と自分たちの生活との関連について追求する学習を設定した。この学習を行うことは、次のような価値があると考えられる。

- 国民の多くが、日常生活や産業の中で利用している情報について、興味や関心を高めることができる。
- 多種多様な情報を収集・選択・加工して提供している放送などの情報産業が、国民生活の向上や産業の発展に大きな役割を果たしていることを考えることができる。
- 情報化した社会において、自分たちが生活の中でどのように情報を活用すべきかというこれからの生活に目を向けることができる。

(2) 単元の構想について

情報産業である放送局の働きについて具体的に調べ、情報が自分たちの生活に及ぼす影響について考え、情報産業が自分たちの生活の向上に役立っていることを理解できるようにするために、次のように単元を構想した。

学 習 活 動	目 的
○ニュース番組を基に，疑問点や調べたいことを考え，共通課題「ニュースを放送するために，放送局はどんな工夫や努力をしているのだろう。」をつかむ。	○ニュースを放送する放送局の仕事についての課題意識や小単元全体を通しての課題解決の見通しをもつことができる。
○教科書や資料集，図書資料などを基に「情報収集」「番組づくり」「放送の仕方」の観点で調べ，調べた内容を整理し，自分なりの考えをキャッチコピーとして表現する。	○情報がどのように自分たちのもとまで届けられているのか等の情報の伝達方法を知るとともに，放送局の仕事について捉える。
○調べたり，整理したりしてきたことを基に表現したキャッチコピーやそのように考えた理由を友達と交流する。	○自分の考えをより確かにしたり，広げたりし，放送局には大きな役割や責任があることを捉える。
○情報産業と自分たちとの関わりについて話し合い，学習のまとめをする。	○情報を受け取る側の正しい判断の必要性に気付くことができる。

本小単元は，次小単元「情報化した社会の様子」で，医療における情報ネットワークの活用について調べ，情報ネットワークの働きが公共のサービスの向上のために利用されていることや情報ネットワークを有効に活用しながら生活をする必要性があることを考える学習へと発展する。

3 指導上の留意点

本小単元の学習を進めるにあたっての指導上の留意点は，次のとおりである。

- (1) 「課題をつかむ」過程では，各地域での様々な出来事を放送局が自分たちのもとまで届けていることを実感できるように，実際のニュース番組を見て内容や場所等を調べる活動を設定する。その後，共通課題をつかめるように，ニュースを見てまとめたことを基に考えた疑問点や調べたいことを発表する場を設定するとともに，その内容を整理して板書する。そして，追求する際の調べる観点をもてるように，予想をする活動を設定する。その際，「情報収集」「番組づくり」「放送の仕方」等の観点を考えられるように，国内外の支局が分かる地図，中継車，放送局での会議，スタジオの様子を提示したり，予想を整理してまとめたりする。
- (2) 「追求する」過程では，様々な観点から共通課題との結び付きを意識できるように，子ども一人一人が，全ての観点について整理しながら追求する活動を設定する。そして，多様な情報を生かして個別追求に取り組めるように，教室に図書資料などの資料コーナーを設置したり，NHKの放送に関する資料を配付したりする。また，共通課題についての自分なりの考えやそのように考えた理由を表現できるように，追求した内容やそこから分かったことを図に整理する活動を設定する。その際，追求した内容を整理して表現できるように，付箋紙を活用し，それを操作したり，付箋紙に書かれた内容を線で結んだりするよう助言する。また，自分なりの考えを端的に表現できるように，課題についての考えをキャッチコピーとして表現するよう助言する。その際，キャッチコピーには効果的に考えを伝えることができる特性があることを捉えられるように，人を惹き付けるようなキャッチコピーが書かれているポスター等を提示し，思ったことを発表するように促す。そして，自分なりの考えをより確かなものにしたたり，広げたりするために，小集団で自分なりに考えたキャッチコピーやそのように考えた理由を表した図を基に交

流する活動を設定する。その際、互いのキャッチコピーやそのように考えた理由についての共通点や相違点に着目できるように、友達と自分の表した図を比較するための観点を提示する。また、放送局の果たす役割や責任の大きさを実感できるように、震災時のニュースの放送時間が分かる資料を基に、放送局の働きと自分たちの生活との関わりについて考えるよう促す。

- (3) 「まとめる」過程では、情報を発信する放送局と情報を受け取る自分たちの関わりについて考えられるように、誤報道が与える影響の大きさが分かる資料を提示し、放送番組などの一方向からの情報を生活の中でどのように活用していくかを話し合う活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

1 目 標

情報産業と国民生活との関わりを考え、国民生活の向上や産業の発展に大きな役割を果たしていることや情報の有効な活用が大切であることを理解する。

2 評価規準

- (1) 情報産業と自分たちの生活との関わりについて関心をもち、情報産業である放送局の働きについて調べようとする。
- (2) 情報産業である放送局の働きと自分たちの生活との関連を考え、情報が自分たちの生活に及ぼす影響や情報の有効な活用が大切であることについて表現している。
- (3) 写真や文章等の基礎的資料を活用して、情報産業である放送局の仕事について調べる。
- (4) 情報産業である放送局がニュース番組を制作する様子、情報発信の重要性や問題点について理解する。

Ⅳ 学習計画（全8時間予定）

過 程	学 習 活 動	時間
課題をつかむ	○ニュース番組を見て内容や場所等を調べる。	1
	○ニュース番組を見てまとめたことを基にして、疑問点や調べたいことを考え、共通課題をつかむ。	1
	○共通課題について資料を基に予想し、調べる観点を考える。	1
追求する	○情報産業である放送局の働きについて、観点到に沿って調べる。	2
	○追求した内容を図に整理し、自分なりの考えをキャッチコピーとして表現する。	1
	○表現した図を基に、キャッチコピーやそのように考えた理由を小集団で交流する。 (本時)	1
まとめる	○情報産業と自分たちとの関わりについて話し合い、まとめをする。	1

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 表現した図を基に、キャッチコピーやそのように考えた理由を交流することを通して、情報産業である放送局の果たす役割や責任の大きさについての考えをより確かなものにしたたり、広げたりすることができる。
- 2 準 備 教科書，資料集，前時に作成した図
- 3 展 開（みとりのポイント：□は「おおむね満足できる」状況，◎は「十分満足できる」状況にある子どもの姿）

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点（☆：研究上の手立て）	時間
1 前時までの学習を振り返り，本時のめあてをつかむ。	○本時のめあて「放送局についてまとめたキャッチコピーやそのように考えた理由を交流し	↑

- ・放送局について調べたことから、友達はどうなキャッチコピーを考えたのかな。その理由も知りたいな。
- 2 キャッチコピーやそのように考えた理由を小グループで交流する。
- ・ぼくは「速く，正確，分かりやすい放送局」にしたよ。理由は，それぞれの仕事が全部，速く，正確，分かりやすくという工夫や努力とつながっていたから。
 - ・〇〇さんは「大きな責任，放送局」と考えたのか。
 - ・〇〇さんの図には，速く，正確，分かりやすくという内容もあるけれど，見る人に合わせてや相手の立場という言葉もあるぞ。
 - ・なるほど，大きな責任というのは，放送局が見る人にとって，とても大きな影響があることを伝えたかったのだな。なるほどな。
 - ・ぼくは，分かりやすくという言葉に見る人に合わせてという内容を付け足そう。
- 3 交流を通してもらった自分なりに考えたことを発表し合う。
- ・キャッチコピーは似ていたけど，自分には無かった理由も友達にあったのだな。
 - ・確かに地震のニュースが，毎日の自分たちの生活に大きく関わっていたな。
- 4 本時の学習を振り返る。
- ・情報の働きは，自分たちの生活に大きな影響があることがより分かったぞ。

よう。」をつかめるように，前時までに課題について表現してきたことを確認したり，「友達はどうなキャッチコピーを考えたのか。」などと問いかけたりする。

☆自分なりの考えやそのように考えた理由をより確かなものにしたり，広げたりできるように，互いのキャッチコピーやそのように考えた理由を交流する活動を設定する。

☆考えをもつまでに様々な理由があることに着目できるように，同じ内容を追求してきたが考えやそのように考えた理由が異なる小グループを形成する。

みとりのポイント

□表現した図を基に，キャッチコピーやそのように考えた理由を伝えている。

◎表現した図を基に，キャッチコピーやそのように考えた理由を複数関連づけて伝えている。

☆互いのキャッチコピーやそのように考えた理由の違いを視覚的に捉えられるように，表現した図を基に，共通点や相違点に印を付けたたり，新たな内容や線を付け加えたりするよう促す。

○なかなか作業が進まない子どもには，互いの違いを見付けられるように，「自分にはない事実や線はどれか」などと問いかけたり，表現した図を基に一緒に考えたりする。

○学級全体で交流を通して考えたことを共有できるように，交流を通して「なるほどと思えたキャッチコピーやその理由」を発表し合うよう促す。

○情報産業である放送局の果たす役割や責任について，より実感的に捉えられるように，東日本大震災後のニュース番組の放送時間が分かる資料を提示し，「なぜ，放送局はこのような対応をしたのか」などと問いかけをする。

○本時の学習のまとめができるように，自分なりの考えをより確かめたり，広げたりできたことを賞賛したり，学習を振り返るよう促したりする。

5分

25分

10分

5分

